

○木造建築物を活かした観光の取組

農觀連携のモデル事例

歴史的建造物のスケール感を観光名物に！（宮崎県日向市）

- 日本有数の杉材生産地である日向・入郷圏域において、木造建造物と森林資源などを活用した観光ルートの構築に取り組み、観光客数の増加や、地域の活性化を目指す。

○事業主体　日向商工会議所

○取組概要

日向市を中心とした日向・入郷圏域は、日本有数の杉材生産地。同地域には、椎葉村・十根川と日向市・美々津という二つの伝統的建造物群保存地区が存在するほか、古来の工法を忠実に再現した西の正倉院や最新工法を採用した日向市駅(都市景観大賞2度受賞)など、著名な木造建築を有している。平成21年度より、これら木造建築物と森林資源などを活用した観光ルートの構築に取り組み、観光客数の増加や、地域の活性化を目指している。

○取組の成果

情報発信のため、建築物やツアーに関するパンフレットのほか、映像資料を作製。また、地元の伝統的な食事や生活文化を体験できる観光ルートも開発。地元旅行業者によるツアーの実施も始まっており、モニターツアー等もあわせて、これまでに約250人が参加した。

平成26年度の東九州自動車道の開通等により、今後、交流人口の増加が見込まれることから、地元旅行業者によるツアーの実施やPRに取り組む予定。



木造建築物や森林文化、地元の
もてなしといった地域資源を楽しむ

